

2009年度

科目名	現代メディア分析B		
担当教員	鈴木 利一		
配当	日文3	コード	13240
開期	後期	講時	月曜日3限
		単位数	2
授業テーマ	新聞・ニュース、そしてインターネットを通して現代社会における情報との向き合い方を考える		
目的と概要	激しく移り変わる世の中の動きを、我々に伝えるメディアは数多く存在します。そして、過渡期を迎えているとはいえ、いまだ新聞・放送メディアによるニュースが重要な位置を占めていることは間違いありません。本講義を通して、新聞・放送からいかなる情報を得られるのか、また、その情報をどう他者に伝えられるのか、台頭著しいインターネットの特質と既存メディアとの関連性など、共に考えてみたいと思います。		
成績評価法	講義への参加状況(40%)、課題の提出状況(40%)、課題に取り組む姿勢(20%)等を勘案し、総合的に判断します。		
テキスト	特に定めません。		
参考書			
履修に当たっての注意・助言	前期開講科目の現代メディア分析Aと併せての通年受講が望ましい。 講義中、オンライン検索を多用しますが、許可を得ないで講義とは無関係なサイトを閲覧することを 厳重に禁止します。		
講義計画			
この講義では、1回ごとの内容が次の2部構成となっています。			
<p>前半は、この1週間の新聞等のニュースから、現実に移り変わりゆく社会の姿をリアルタイムで読み取ることを目指します。新聞の紙面構成や新聞にまつわるすべての事柄、たとえばチラシ広告などにも注意を向け、新聞紙面に掲載された情報に対する実践的対応能力の養成が中心となります。さらに、インターネットの特質に注目し、新聞紙面のみでは伝わらない情報までも含めたオンライン検索の手法、分析法を探ります。また、当日取り上げたテーマに沿って、日本社会の仕組みやその背景となる文化、季節にまつわる話題等を取りあげていく予定です。あわせて、この講義で習得した情報リテラシーを日本語教育や異文化間コミュニケーションの場に応用する方法を考えてみたいと思っています。設定されるテーマの概要は、以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本社会の仕組み(第1回) ・官公庁の果たす役割(第2回) ・各官庁とニュース(第3-14回) <p>この期間は、各官庁個別の所管業務や行政機能について、担当者を決め作成した資料をもとに発表する形式で講義を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ(第15回) <p>後半では、経済国家としての日本の特質を、株式市場の分析から学びます。オンラインで提供される現実の株式市場に連動したバーチャル取引ゲームを利用して、自己資金運用の模擬実践を行い、社会情勢に対する基礎的知識の習得と経済動向に対する的確な情報判断能力の養成を目指します。</p>			